

14. 4-691



1200501208078

#4

11

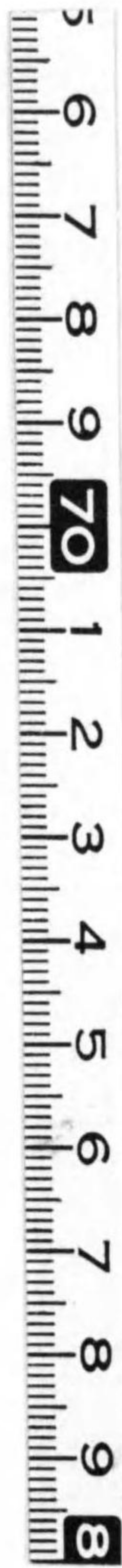
東京市魚市場年報

(昭和四年)

昭和五年三月

(代謄寫)

東京市役所



始



昭和四年

# 東京市魚市場年報

東京市魚市場 寄贈本

## 目次

### 第一章 東京市魚市場

一、沿革	一	附屬運送業者	四
二、位置及面積	一	(三) 待合所營業者	四
三、設備	一	(四) 附屬商	四
四、建物種別及坪數	二	(五) 郵便局	四
五、附屬冷藏庫	二	(六) 銀行	五
六、管理	三	八、市場開市時間	五
七、東京魚市場組合	三	九、販賣方法	五
(イ) 主要機關	三	十、買出人	五
(一) 問屋	三	十一、衛生及取締	五
(二) 問屋兼仲買	三	(一) 汚物處分	五
(三) 仲買	四	(二) 場内洗滌	五
(四) 補助機關	四	(三) 防蠅及消毒	五
(一) 小揚及輕子	四	(四) 大掃除	五
		(五) 防火施設	六
		十二、東京市魚市場日報	六
		第二章 取 引	



昭和四年

# 東京市魚市場年報

## 第一章 東京市魚市場

### 一、沿革

大正十二年九月一日の大震災で日本橋魚市場は全焼した、そこで同組合は芝區芝浦二丁目に約二千坪の敷地を借受け、同月十七日より天幕張の臨時魚市場を開設し後更にバラック店舗七百坪を増築して、不十分なから當時の開業者八九百名を收容し、日々入荷數量二百噸内外を取扱ひ入場者亦一萬人内外を算した、固より其の設備は不完全で且つ其の位置たる市の南方に偏し交通不便なるが爲め本市は同組合の請願を考慮し震災後應急施設として、海軍省より築地海軍技術研究所用地の一部を借り入れ、同年十一月六日、警視廳より食品市場開設の許可を得て、バラック店舗建設に着手し同月三十日に竣工し、日本橋魚市場組合員及附屬業者等全部を之に收容し、十二月一日開場式舉行、翌二日より營業を開始した。

### 二、位置及面積

京橋區築地四丁目一番地海軍技術研究所用地の一部に在り。隅田河口に臨み、海陸の運輸至便なる地域である、隅田川驛より陸路約二里十三町、汐留驛より約十町、兩國驛より水路約一里四町を距て、使用敷地一萬二千五百七坪餘の廣袤を占有する。

### 三、設備

震災直後、適當なる材料に乏しき時建設せられたる關係上、建物構造は總て亞鉛板葺、裏板張の木造バラックである。但し冷蔵庫及水販賣所は防熱装置とし、場内一圓混泥土を以て舗装し、汚水雨水は開渠に依り隅田河口及築地川東支川に排出せしめ、場内縦横に口徑三寸延長三千百六十六尺の送水鐵管を埋設し、十五箇所にスタンドを設置し、汚物掃除後は、スタンドに護謨ホースを取り付け、十馬力のモーターに依りて冷蔵庫の排水に壓力を加へ、埋設鐵管を経て全市場を洗滌するの設置を爲すと同時に場内三ヶ所の消火栓と相俟

一、商況一斑	六
一月	八
二月	九
三月	一〇
四月	一一
五月	一二
六月	一三
七月	一四
八月	一五
九月	一六
十月	一六
十一月	一七
十二月	一九
二、入荷狀況	二〇
三、入場人員及入車數	二二
四、地方出荷狀況	二三
五、冷蔵庫寄託魚介狀況	二三
第三章 統計	
一、入場人員數及船車六箇年比較	二四
二、入荷數量六箇年比較	二七

三、陸運入荷地方別六箇年比較	三〇
(一) 兩國橋驛	三〇
(二) 隅田川驛	三三
(三) 汐留驛	三六
四、海運入荷地方別六箇年比較	三九
五、地方出荷數量五箇年比較	四二
六、冷蔵庫保管數量六箇年比較	四五
七、冷蔵品種類別入出庫數量五箇年比較	四八
八、冷蔵庫附屬製氷高六箇年比較	六六
九、鮮魚介相場六箇年比較	六九
(一) 近海物	七一
(二) 活物	八四
(三) 關西物	八七
(四) 三陸物	九五
(五) 北海物	一〇〇
(六) 冷凍魚	一〇五
(七) 川魚	一〇八
十、鹽乾魚	一一〇
附錄	
汚物搬出數量五箇年比較	一一六
東京市魚市場魚類入荷及地方出荷比較一覽圖	一一六

つて防火設備を兼ねしめ、又水運に依る鮮魚陸揚用として、隅田河岸に沿ひ幅三間長さ九間の木造棧橋七箇架設し之に七箇の棧橋見張所を附設した、各店舗其の他の營業所には間口二間毎に水道栓一箇及五十燭光電燈一燈を設置し、更に荷捌所、車置場、棧橋及通路等には警戒交通作業の安全を期し五百燭、三百燭、百燭の街燈及建物標示燈(五十燭)等を點じて居る。

四、建物種別及坪數

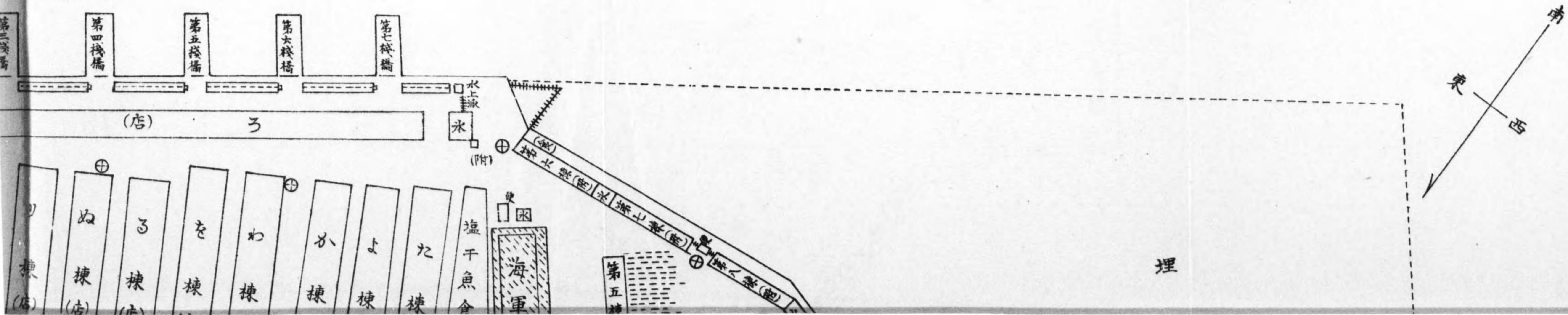
建物種別	坪數	棟數
魚類營業店舗	二、五三一坪二七	二二
待合所	三、八五坪	八
附屬商店舖及食堂	一、九四坪	三
發送運送荷捌用店舗及運送營業用計算所	一、六八坪	一
地方出貨行	五〇坪	二
氷販賣所(一ヶ所ノ棟内ニ、他二ヶ所ハ第六、第八兩棟建増内ニアリ)	四、五坪	三
鹽販賣所	八坪(ノ棟ノ内ニ設ク)	一
無料待合所、公衆食堂及公設市場待合所	一、七坪	二
小揚艇子各營業用計算所	一、六坪	一
營業用計算所	四、八坪	一
鹽乾魚倉庫同番人詰所	八、一坪五	二
小揚休憩所及塵芥掃除監視員並人夫詰所	一、三坪五	三


種別	坪數	棟數
冷藏庫及製氷所	二、六二坪	一
冷藏庫宿直。浴室ポンプ室人夫室	一、八坪六六	四
東京魚市場組合事務所	五、七坪五	一
郵便局及物置	一、四四坪	一
守衛詰所及請願巡查派出所物置等	一、七坪	一
東京市魚市場事務所	九、一坪	一
守衛宿直室物置兼人夫詰所浴室等	一、二坪	二
棧橋見張所	三、坪一一	七
共同便所	三、〇坪五	一
計	四、一九三坪〇四	八三
外ニ煙草賣場七ヶ所及公衆電話一箇所アリ		

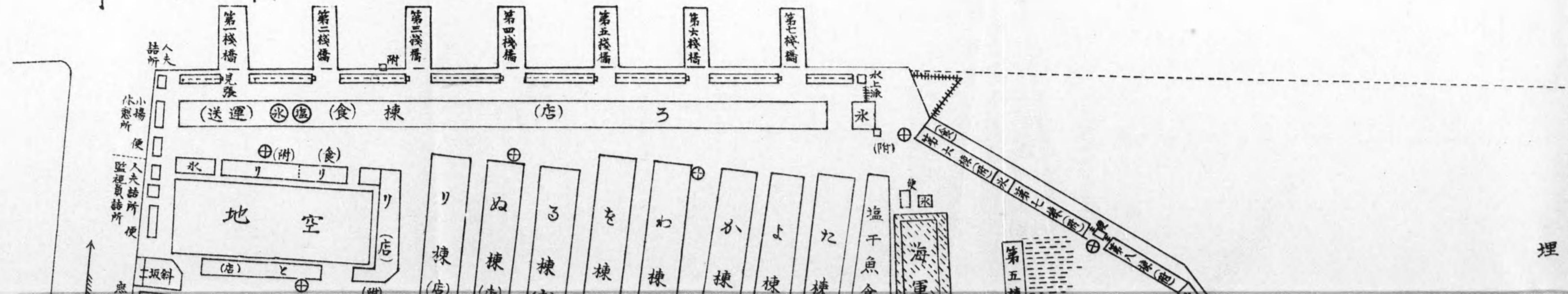
五、附屬冷藏庫

本冷藏庫は、大正十三年五月上旬起工、同年七月下旬竣工し、八月五日冷藏及製氷事業を開始した。煉瓦腰壁の木造建にして、延坪數二六二坪、此の内譯冷藏庫八〇坪、機械室三〇坪、製氷室三二坪、貯氷室二〇坪、その他六七坪、階上は凝縮室一九坪、その他一四坪で冷藏庫及貯氷庫の各壁及床には、全部防熱装置を施し冷藏用二〇噸機、製氷用一〇噸機、何れも米國ビルタ一會社製、アンモニア直接膨脹式を採用した、本庫を十二室に區劃し、其の容積三八、〇〇〇立方呎、冷却用

東京市魚市場建物配置

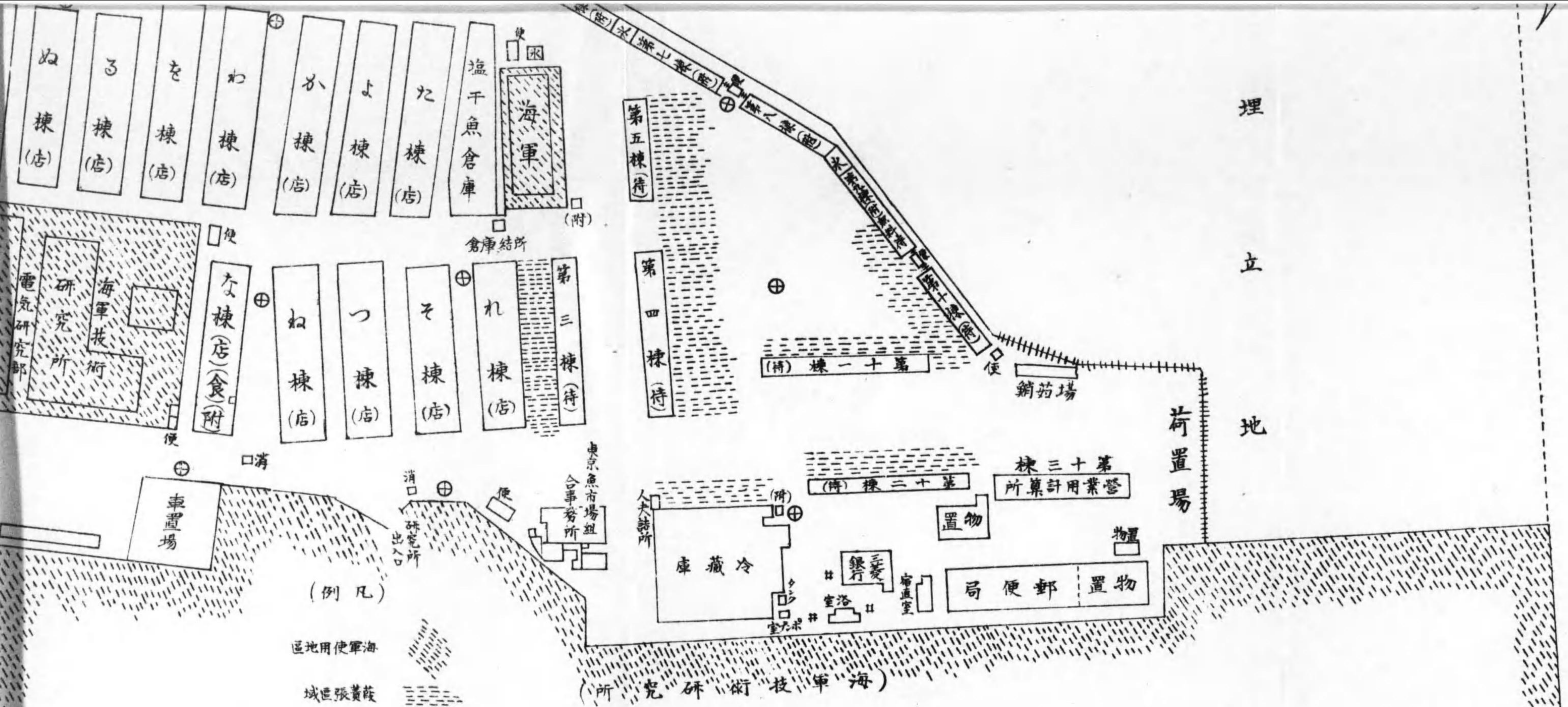


川 田 隅 



場建物配置圖

壹千貳百分、壹



- 舖店人買仲ハ又屋間 (店)
- 合組送運 (送運)
- 所賣販水 (水)
- 堂食 (食)
- 高層附 (附)
- 所便同共 便
- バス用濺洗 ⊕
- 戸井 井
- 要茶持網 (持)
- 所出液廢請 (液)
- 栓火消道水 消
- 話電家公 区
- 柵欄鉄 #
- 柵木 十

築地川

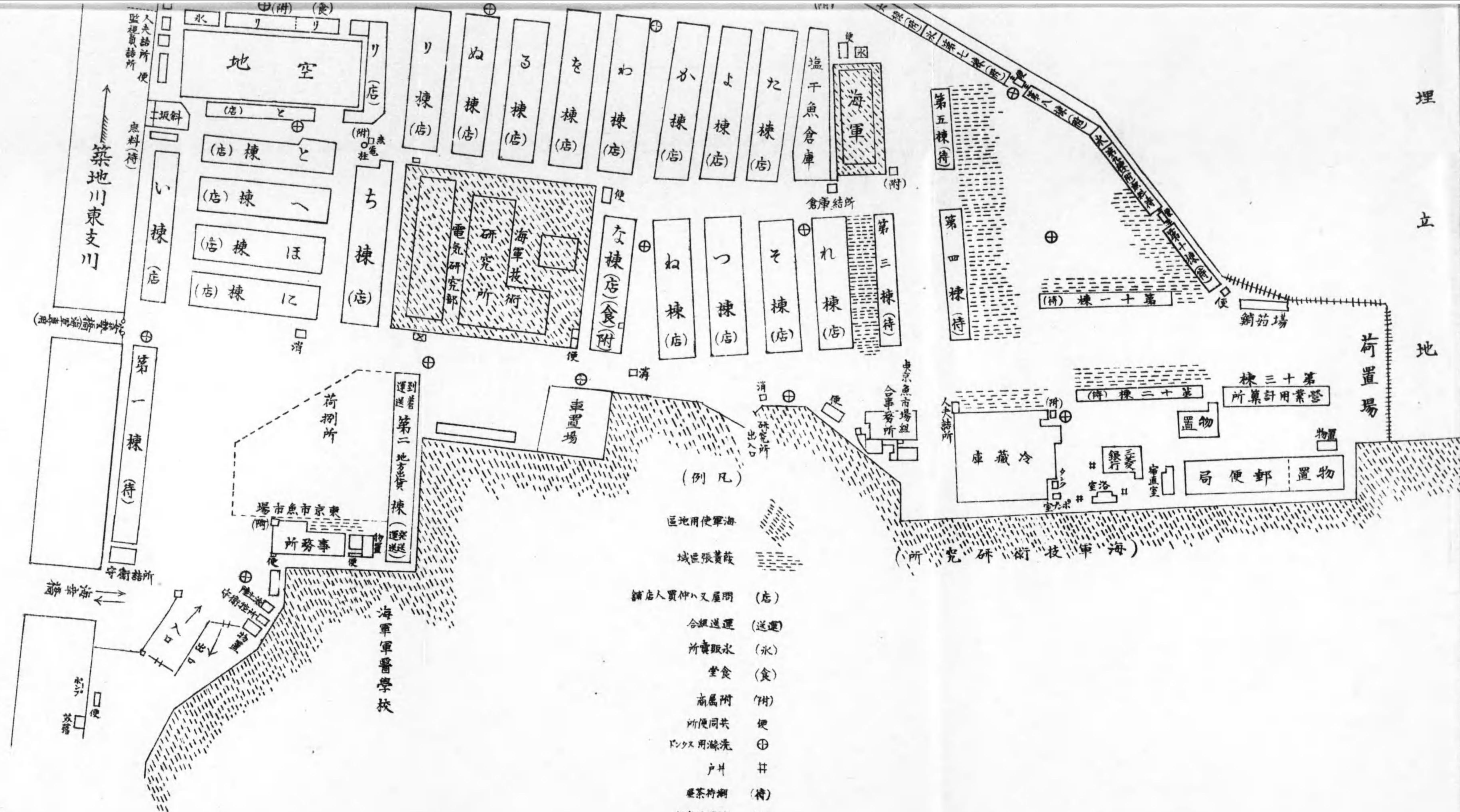
濱離宮

鹽乾魚倉庫同番人詰所  
小揚休憩所及塵芥掃除監視員並人夫詰所

八一坪五  
一三坪五

三二

一會社製、アンモニア直接膨脹式を採用した、本庫を  
十二室に區劃し、其の容積三八、〇〇〇立方呎、冷却用



- (例凡)
- 海軍用地區 (海軍用地區)
  - 葦張張區域 (葦張張區域)
  - 商店人買仲ハ又屋間 (店)
  - 合組送運 (送運)
  - 所賣販水 (水)
  - 堂食 (食)
  - 高層附 (附)
  - 所便同共 (便)
  - ドックス用漱洗 (洗)
  - 戸井 (井)
  - 庭茶持棚 (持)
  - 所出液願請 (液)
  - 栓火消道水 (消)
  - 話電家公 (電)
  - 柵網鉄 (柵)
  - 柵木 (柵)

築地川東支川

人夫詰所  
監視員詰所

空地

ち棟 (店)

海軍技術研究所  
電気研究所

交棟 (店) (食) (附)

ね棟 (店)

つ棟 (店)

そ棟 (店)

れ棟 (店)

第三棟 (待)

第五棟 (待)

第四棟 (待)

(待) 棟一十第

棟三十第  
所集計用業營

(待) 棟二十第

冷蔵庫

銀行

郵便局

東京魚市場

事務所

海軍軍醫學校

(海軍技術研究所)

荷置場

埋立地



鐵管全長二萬九千尺に達す。本庫及豫備室は華氏二十四度を標準とし、收容噸數最大限百八十噸である。製氷量は一晝夜十噸で、貯氷庫は收容噸數百二十噸である。尙凝縮機冷却用水は、二箇の堀井戸を以て之に充て一時間の所用水量約百七十石である。外に豫備として一箇の井戸を備ふる。

#### 六、管 理

本市場は本市中央卸賣市場開設の前提であつて、震災直後應急的に設置せられたるもので、當初商工課の主管に屬し、魚市場事務所を置きて専ら現場監督に當らしめたが、大正十三年七月處務規程の改正により東京市魚市場は獨立し、庶務、管理、調査、冷蔵庫の四掛を置き、魚市場に關する一切の事項を處理し、次で大正十五年十一月職制改正の結果再び商工課の所管に復した。然れども本市は、市場に於て自ら營業を爲すにあらず、東京魚市場組合員をして營業せしめ市は單に之が管理に任ずるのみである。尙東京魚市場組合員は、組合規約を作成し、本市を經由して警視廳の認可を受け、本市建築の店舗を賃借し、鮮魚及鹽乾魚等の取引に従事して居るのである。

#### 七、東京魚市場組合

本組合は從來日本橋魚市場組合と稱せしが昭和三年四月四日一部規約の變更と同時に名稱を東京魚市場組合と改め、役員は組合長一名、副組合長一名、理事五名、監事二名他に代議機關として代議員三十七名を選出す總組合員一千二百九十四名あり、同年七月十四日警視廳令第二十九號食品市場取締規則の發布により同九月末日以來組合員全部の營業許可を得以て今日に及べり。

#### (1) 主要機關

#### (一) 問 屋

問屋は、荷主より魚荷の委託を受け、之を仲買に賣渡す行爲を爲すもので、之に加入せんとする者は、手数料五十圓、身元保證金五百圓を組合に納入し、鑑札の交付を受くるを要す。目下問屋專業者十八名あり、委託販賣手数料は、賣上高の七分乃至一割以内と規定せり。

#### (二) 問屋兼仲買

問屋兼仲買とは、同一人にて問屋及仲買人の納むる手数料及身元保證金を各別に組合に納入し、問屋兼仲買の鑑札を受けたるものを謂ひ、一方より荷受けを爲し

つ、一方に於ては、仲買人として一般買出人に販賣する行爲を爲す。其の數七五三名あり。本市場の取引に關する中樞をなせり。

(三) 仲 買

仲買も亦問屋と共に重要な販賣機關である。專業者五二三名、其の業務は、魚荷を問屋より受け之を一般買出人に販賣するもので、仲買專業者は、組合規約に依り直接荷主より魚荷の委託販賣を引受けることを許さない、加入手数料二十圓、身元保證金百圓を要する。

(四) 補助機關

(一) 小揚及輕子

小揚とは、魚荷の陸揚及荷捌を爲し、問屋まで運ぶ者を謂ひ、輕子とは、問屋及仲買に隸屬し、仲買が買出人に賣渡せし魚介を指定の待合所に配達する者を謂ふ。是等は各別に組合を組織し、東京魚市場組合に附屬し市の認可を受け營業して居る。小揚組合に屬する者二三九人、輕子組合(親興組合と稱す)に屬する者六二三人である。

(二) 附屬運送業者

到着運送業者にして市場内に事務所を有する者は東京

魚市場運送組合を組織し、各驛と當市場間の魚荷運送及場内魚荷の荷捌に従事す。組合員十八人あり。其の他地方出荷業者十四人、發送運送業者二〇人あり、近縣行き魚荷の荷作り及移出を掌る。

(三) 待合所營業者

待合所は、俗に潮待茶屋、棒手茶屋又は、單に茶屋と稱し、一定の料金を以て買出人の貨物自動車、自轉車荷車等及其の買受けたる魚介の、輕子に依りて配達せられたるものを、取纏め保管して彼等の去來に便する機關である。從業者一九八人、其の保管料は時に増減あるけれども、貨物自動車一日一輛に就き一圓、自轉車二十錢、リアカー二十五錢荷車三十錢内外である。

(四) 附 屬 商

附屬商と稱するは、場内に於て飲食物、荒物、ツマ物等を販賣する商人を謂ひ、其の種類は天麩羅、鮎、西洋料理、蕎麥、牛乳、パン、汁粉、果物、鳥肉、青物、乾物、荒物、靴屋、金物屋等である、是亦附屬商組合を組織す、其の數一九九人である。

(五) 郵 便 局

場内に京橋郵便局築地分室を設け電信、郵便其他通

信一般の事務を取扱ふ。

(六) 銀 行

三菱銀行出張所を設け取引に便する。

八、市場開市時間

毎日未明より正午まで、魚荷の多き時は午後一、二時に及ぶことがある。一月一日及び毎月二十二日を市場定休日とし當初から實行してゐる。

九、販賣方法

問屋對仲買間の取引は相對であり又仲買對買出人間の取引も相對賣買である。問屋は特約以外は賣立後直ちに荷主に送金し、仲買人は現金乃至毎月計算により買出人に販賣するを例として居る。

十、買 出 人

買出人は市内及び近郊に於ける魚商、料理店、飲食店、鮎屋、蕎麥屋、天麩羅屋、辨當屋、仕出屋、棒手等多く日々の入場者二萬人乃至二萬五千人内外で遠くは横濱、八王子、千葉、浦和、前橋、高崎、水戸等より貨物自動車に乗り來る者亦少なくない。

十一、衛生及取締

(一) 汚物處分

鮮魚及鹽物乾魚等の荷解に従ひ包裝用繩、蓆、菰、藁、箱、屑、塵芥、其の他魚腸骨、屎尿等の汚物は衛生に密接の關係あり、忽諸に附する能はざる所から日々之を場外に搬出處分しつゝあり。

(二) 場内洗滌

既に構造設備の項に於て述べたる如く、送水鐵管のスタンドに護謨ホースを取付け毎日午後塵芥掃除後其の送水を利用して場内を洗滌清潔ならしめて居る。

(三) 防蠅及消毒

店舗内、路面其他を洗滌する傍ら毎日常下水を浚渫し汚泥は之を場外に搬出處分し、更に河岸、下水、便所其他蠅蛆發生の虞ある場所には如露及唧筒式噴霧車に依り、クレシンを撒布する、其の量、夏時に在りては一日一斗入七罐乃至八、九罐、之を約三十倍に稀釋して消毒に使用する。

(四) 大 掃 除

毎年五月より十月に至る六ヶ月間は毎月一回づつ、東京魚市場組合と協力し當業者總動員の上店舗内外の大掃除を施行し以て食品市場の清潔の完璧を期し、衛生施設に努めつゝある。

(五) 防火施設

場内路面の洗滌用スタンドは、火災時防火用に兼用する。即ち非常時には布製ホースをスタンドに取付け、十馬力のモーターに依りて冷蔵庫の排水に水圧を加へて放水する。其の放水力はホースの筒先より優に約十五間の距離に達する。平常、ホースは捲車に捲き格納庫に收む。非常時格納庫より之を搬出しスタンドに取付け放水する迄に要する時間は約二分内外にて足る。又水道消火栓は場内三箇所設け、火災時防火用に準備する。尚夜間の取締に就ては宿直員及守衛を督し徹夜之が任務に當らしめる。

十二、東京市魚市場日報

魚介類の數量、價格、商況等を調査し「東京市魚市場日報」と題し日々五百五十枚を印刷して、荷主、問屋仲買、買出人、消費者、公設市場並關係官衙等の希望に應じ無料配布し、尚日報を取纏めたる月報、年報等を印刷して、希望者に贈與し參考に供しつゝある。

第二章 取引

一、商況一般

昭和四年に於ける取引狀況を回顧するに、彼の大正九年に於ける金融恐慌、大正十二年の大震災に因る打撃、昭和二年の經濟動亂等累積的財界の不況は益々峻烈となり、加之帝都復興事業の進捗による失業者の續出、更に本年七月二日の内閣更迭に伴ふ政府の緊縮政策に基く實行豫算の編成並に金解禁準備としての消費節約の宣傳等、直接間接に市民は勿論一般國民の購買力の減退を來し、延ひて當市場の取引の上にも著しく打撃を蒙り、軟弱氣配は前年以上に其の度を強め商勢兎角思はしくなかつた。

例へば花見季節の四月、祭月と稱せらるゝ十一月等例年市場氣配を引立つる月に於てさへ期待を裏切らるゝ取引商況に終始せしは其の一例である、次に特定魚類二三の本年に於ける商況を左に摘録すれば、

一、マグロは四季を通じ絶えず市場に上場賣買せらるるも漁場並に漁獲數量は季節により異り、北に多く南

に多く近海に多く、或は加賀、越中、越前、若狭沿岸を主とする日本海に多く、或は各地共薄漁の季節等一様ならず従つて鮮度の良否、入荷數量の多少に依り市況を左右せらるゝ事多し。

各月を追ふて詳述すれば、一月早々は品拂底し高値商況を維持せしが、下旬より二月上旬に亘りて土佐清水、日向油津方面より入荷輻輳し、早くも二十圓臺を割るに至りしが、中旬以降入荷減少し上昇氣配を辿り三月中旬の頃、四國並に南九州産一時薄漁となりし時に際し、銚子、常磐産を始め、伊豆三崎産等豐漁となり品薄を緩和せしが、下旬より四月中旬に亘りては近海各地は勿論、日向、土佐、紀州沿岸に再びマグロの群來を見るに至り、本年に入り第二回目の安値商況を呈するに至つた。其後五月中旬頃迄は同方面より間斷なく入荷せしが、幾分品薄となりし爲相場は持直し稍高値となつた。五月末頃に至りては漁場は漸次南より北に移動し、日向、土佐、紀州沿岸のもの稀薄となり近海産の外、常磐、三陸産等多く軟弱商況に傾き、六月に入りては漁場は一層廣汎に涉り、就中富山、石川福井等日本海沿岸のもの最も多く、紀州、土佐産之に次ぎ三陸、

近海産の順位にて入荷輻輳せし上、肉質軟弱にて彈力なきもの、並に俗に脂肪焼と稱しマグロ特有の色澤、香味を失ひたるもの等の次品大部分を占め拾圓臺を割る廉價商況を唱へ遍くマグロ嗜好者を潤ふした。七月の交は引續き敦賀、小濱等の若狭沿岸、釜石、宮古、氣仙沼等の三陸沿岸、釧路、浦河等の北海道産等潤澤に入荷し、肉質依然不良なりしと、暑さの爲需要も意の如くならず、時に三、四圓内外の廉價商況を唱へ市設市場開始以來の最底記録を出現した。八月の交は釧路産一層輻輳し、マグロの商況は殆ど釧路産獨專の態にて相場は幾分の恢復を見たるも月平均は尙九圓乃至七圓内外の廉價商況であつた。九月に入りては釧路産を首位として擇捉産之に次ぎ三陸産も時に多少の入荷を示し、月變り早々残暑酷しき時に際しては猶低廉なりしが次第に高値氣配に轉じ、十月の聲を聞くと共に釧路、釜石産入荷多く再び下向き商況に傾きしも食慾昂進の季節とて需要加はり、多少宛相場を擡げ高値氣配の儘十月を送り、霜月に入りては、入荷猶北海、三陸筋より相當多量なりしが、荷揚げの調節に依り巧に供給を加減せし爲チリ高商況を辿りつゝ、師走を迎へたが、さしも潤澤

なりしマダロも各地の漁場を遠ざかりし爲か漁獲激減し、需要を満すに足らず高値人氣を呼ぶに至り、月末の歳末需要期に際しては品拂底を啣つに至つた。

一、サバ 惣菜物中春夏秋冬を通じて最も豊富に供給せられ、市民の食膳を賑はしつゝ、ある物の一として先づ指を屈する品はサバである。本年上半期に於ては天津、千倉、平館、布良等の外房筋、並に勝浦方面を主とし、伊豆、三崎沿岸及沼津、大磯等の東海道沿線より入荷し、尙一二月の候は大島方面の品を交へ、四月中旬より五月上旬の候に於ては日本海産サバ石川縣方面より入荷し、六月に入りては磐城産をも交ふるに至つた。而して相場は一、二月は大差なく、三月は幾分安値商狀、四月は上旬軟弱氣配なりしも、中、下旬とも品薄となり可成の高値商狀となつた。五六月の候に入りては産卵期なる上、入荷も輻輳し、著しく軟弱氣配となり、磐城産サバの如き六月に於ける平均相場は四、五圓内外の安値商狀となつた。下半期に入りては七、八、九の三ヶ月とも近海産品簿なりしが、十月以降十二月に亘りては伊豆、三崎、房州、大島並に東海道沿線等より入荷漸増し來り、旅物は七月は常磐産多量

なりしも其後十月に至る迄別に纏りたる入荷なく、十一月、十二月の候に入り下關經由の朝鮮産サバ連日入荷し、近海産と相俟つて供給を潤澤ならしめた。相場は七、八兩月は酷暑に因る消費減の爲め品薄の割に商況鈍狀なりしが、九、十月の時期は需要漸次加はり、高値氣配を呈し、十一月は多量入荷に押され安値氣配となり、十二月は次第に上昇氣配となつた。

一、焼竹輪は一般消費者の嗜好に適し、且つ相場底廉にして調理の手軽なる點より重寶なる惣菜物として遍く歡迎せられて居る。

焼竹輪の出荷地は鹽釜を第一位として函館、青森、常磐、氣仙沼、石ノ巻等にして、稀に北海道釧路、室蘭等より多少の入荷を見る事あり。出荷期は一月より六月に至る上半期と九月より十二月に至る下半期の二期にして、盛夏七、八月は出荷殆ど皆無である。

需要の最盛期は十二月にして一月より三月に至る三ヶ月と、十一月との五ヶ月に略相似たる賣行を示し四月の候は漸次賣行遞減し、六月並に九月の二ヶ月は入荷薄に並行して需要も減退し賣行き澁り勝であつた

## 一月

新春を迎ふると共に市場氣配も自から舊臘と異り、入荷、入場者とも激減し閑散なる取引が繰り返された。試みに昨年一月と對照するに入荷、入場者共一日平均約七分餘の減少を來し、相場は品に依り高底ありしも相似た取引商狀であつた。

刺身物はマダロ、カチキ、キハダ等各品共上旬品拂底に際しては意外な高値氣配を示せしが、中旬以降近海及日向産、土佐産マダロ並に小笠原産キハダ、メバチ臺灣産キハダ、カチキ類等の入荷を見るに至り漸落商狀と化し、此外近海産メジ、土佐産ビンナガ等も、中、下旬入荷し來りマダロの強調氣配を牽制し、刺身物の供給を補ふた。

タヒ類は近海産出廻り尠く高値商狀を持続し、關西産レンコタヒ、チコタヒ等多少宛下向き商狀となつたが尙比較的高値に商はれ、月平均は何れも昨年同期と大差なき商況であつた。

惣菜物も刺身物の取引商狀と軌を一にし、上旬より中下旬と下押商況に轉じ、昨年一月平均と對比するに、近海産ヒラメ、フリ、イナダ、サバ、北海産カレヒ類等さしたる懸隔なく、入荷薄なりし近海産ヤリイカ、

關西産ホウボウ、三陸産メヌキ等は幾分高値商狀を示し、近海産ボラ、メダヒの如きは軟弱氣配であつた。鹽干魚の新巻サケ、スルメ類、數ノ子等は年末需要の直後とて商内至つて閑散なりしが、何れも在荷薄なりし爲、昨年同期に比すれば甚だしい高値氣配を呈し、従つて米國産鹽鮭の如きも可成手堅い取引商狀であつた。

冷凍魚としてはカチキ、サケ、マス、サバ、サンマ、スルメイカ、並に米國産エビ等上場せられ、就中カチキは上、中旬の刺身物高價の時期を見計らひ出庫せられし爲二十六圓乃至二十四圓内外の人氣高商狀を示し惣菜物は多く中旬以降に出荷され、鮮魚の品薄を緩和し米國産エビは相場の低廉なりしと内地産各種エビ類の品薄とに依り手堅い賣行を示した。

## 二月

本月三日故久邇元師宮殿下の御葬儀に際し、市民哀悼の至誠は鮮魚需要の上にも現はれ軟弱氣配の取引を示せしが、其後も兎角商況思はしからず、十日の舊曆正月、十一日の紀元節前後多少好景氣を示せしも、大勢を引立つる餘裕なく不活潑商況に終始し、相場は品に

依り硬軟兩様であつた。

マグロは入荷増加し來り、上旬は日向、土佐産多く、近海産之に亞ぎ安値商況なりしが、中、下旬共漁獲漸減し上騰氣配を辿るに至りしが、平均相場は流石に一月より三割七、八分内外の低落となつた。従つて近海産カチキ、メチ、臺灣産カチキ、キハダ等もマグロと同一歩調の商況を反復した。

エビ類は畜養物のクルマエビ、サイマキ等の外クマエビ、スエビ等入荷減少し、北海道産ポタンエビ、米國産冷凍エビの入荷により需要を滿たせしが、何れも幾分の高値商況は免かれなかつた。

惣菜物中ヒラメ、メダヒ、サバ、キンメ、アカウ等の近海産は上旬相當多量に出廻り安値商況、中、下旬は荷薄上昇氣配、フリ、ムツは氣節物として人氣を集めしが、入荷増加し來りし爲勢ひ軟弱商況に傾き、ピンナが三崎産、土佐産潤澤にて一、二割内外の下押商況、スルメイカ、イワシ等は越中産、カレヒ類は北海道産の入荷多く、三陸産ムキサメ、關西産ホウボウ、カナガシラ等各種共下押商況となつた。サケの鹽物は改良、新巻とも手持薄にて保合商況、米

國産サケは上旬舊正月用として地方に仕向けられ、幾分荷動きを見たるも、中旬以降買人氣振はず安値商況となつた。無頭タラは入荷減退し小締商況、メサシは賣行順調、助宗タラ子、竹輪等は入荷嵩み低落商況となつた。

冷凍魚は主としてサケ、マス、サンマ、サバ、スルメイカ、米國産エビ等にしてマス、サンマは前月より多量に上場せられ稍下押氣配、米國産エビは賣行よく引締商況、サケ、サバ、並に入荷薄なりしイカ類は一月と變りなき取引商況であつた。

### 三月

三月に入り伊豆、三崎、房州、銚子方面並に東海沿岸に於ける近海産魚荷豊富となり、一日平均二十三噸を増加し、同上入場者は千三百餘人の減少を來し、自然取引抄々しくなかつたが、彼岸の入等による小賣の不賑も反映し軟弱商況を裏書した。マグロは銚子、水戸沿岸を始め、東海道筋並に伊豆、三崎産等の外、日向、土佐産等上、中旬は需給調和され商内堅實なりしが、下旬各地より入荷輻輳するに及び、多少の破綻を見せ急落商況に變つた。尙臺灣産カ

チキ、キハダ、近海産メチ等もマグロ市況と大同小異にて上、中旬の高値氣配より轉じて下旬は著しく安値商況となつた。

惣菜物は近海産フリ、ムツ、サバ、キンメ、三陸産マツカワカレヒ、ムキサメ、メヌキ、關西産ホウボウ、朝鮮産ニシン等夫々一、二割内外の安値商況、北海道産マガレヒ、アカカレヒ等は品薄にて小堅い賣行を示した。

サケの鹽物並に無頭タラ等は共に氣乗薄商況、スルメは在荷僅少なりし上、花見季節の需要を控へし爲氣構へ高く、助宗タラ子は岩内、全市、江差等各産地共品薄上昇氣配、粕漬のメヌキ、及タラ等は入荷手頃にて普通商内、千葉縣産末廣イワシ、メサシ類、並に三陸函館産チクワ類は連日入荷多く低落商況であつた。

冷凍魚のサケ、サンマは入荷多く共に下押氣配、スルメイカは賣行圓滑にて一尾十四錢乃至十二錢内外、カチキも今月に入り相當に出荷されたが、刺身物の安値商況に押され一月の如き高値取引は見られなかつた。米國産エビは内地産の品薄に代つて前月以上に上場せられたが手堅い取引商況であつた。

### 四月

春色酣なる四月の候に入ると共に入場者は一日平均一割五分の激増を示し、入荷も多少増加し、中旬に入りては流石に花見時節らしい活氣を呈せし日も見受けたが、一ヶ月を通ずれば差したる事なく鮮魚の多くは安値商況であつた。

マグロは上旬近海、紀州、土佐産等多量に入荷し安値商況、中旬幾分賣行好轉に際し、近海産漁獲薄となりし爲、自然紀州、土佐産とも、稍人氣を高め、下旬に入り各産地共薄漁となり昂騰したが月平均は二割内外の低落を見た。近海、紀州産メチは、共に中旬に於て入荷多く軟弱商況を示し、下旬はマグロの人氣高氣配に煽られて上旬以上の高値となつた。カツヲは出廻り早々の事とて相應の賣口なりしが、上旬は燒津、清水方面より多量に入荷し軟弱氣配、中、下旬入荷漸減に従ひ人氣高商況となつた。

惣菜物中フリは伊豆、房州産並に紀州方面より入荷多く、房州産イナダ類と共に次第に低落商況、アチは房州、東海道沿線より相當多量なりしが、手堅い人氣を維持し、近海産サバは上旬豊漁にて入荷輻輳せしが、

中旬以降薄漁となり、下旬に入りて日本海産大サバ加賀方面より入荷するに及びて品薄を補ひ、八丈並に三宅島方面より廻送せられた飛魚は季節物として賣行良好なりしが、入荷漸増に伴ひ下押商況、北海道産ニシンは、青森、函館經由にて入荷し、一尾四錢乃至三錢内外の取引商況、三陸産ムキサメ、關西産レンコタビ、アマタビ、ホウボウ等夫々多少の低落を見た。

エビ類は内地産品薄を告げしが、中旬より朝鮮産シバエビ、大正エビ、大連産大正エビ等入荷し來り供給を調節し、九十九里濱産赤貝、勝浦産サヨリ等入荷多く安値商況、アワビは本月初め千葉縣の漁業解禁と共に入荷を増して來たが普通の賣行であつた。

サケの鹽物はカムサツカ産並に米國産の陳物品薄となり、三陸産サケ、マスの新物姿を見せ商内圓滑、スルメ類は品一層拂底し高値商況、末廣イワシ、新鹽敷の子、身欠ニシン等入荷多く下向商勢となつた。

サケ、マスの冷凍品は共に手堅い商況を示し、サンマは入荷薄にて、幾分高目、スルメイカは出荷多量なりし爲多少低落商況となつた。

五月

阜月晴れと稱せらる、本月の天候、兎角不順にて曇天降雨多く、端午の節句等に於ても豫期した程の賣行を呈せず、各鮮魚とも概ね軟弱商況であつた。之を入荷入場者の状態より觀察するに北海道、三陸産魚荷を主とする、隅田川驛扱ひの物は著しく減少せしが、千葉縣沿岸、三崎、伊豆産等を始め、汐留驛着の東海道沿岸並に關西産等の入荷多量なりし爲、結局一日平均二十四噸の増加を示したるに引替へ、入場者は一日平均二千六百餘人の減少を來し、市況の緩慢軟弱を物語つて居た。

マグロは上旬三崎、銚子、常磐産並に、土佐産等順調に出廻り、中旬は各地産共、漁獲減退し、小締商況を繰返せしが、下旬に入り三陸方面の入荷多く、之に押されて各地産共安値なりしが、平均相場は前月より多少上廻り氣配であつた。尙メバチ、カツヲ類は近海産多く、メチは近海、紀州、土佐産等多量に入荷し、刺身物の供給を豊富ならしめた。

鯛類は本月に入り入荷増加し殊に下旬の候銚子方面豊漁を告げ入荷殺到するに及び廉價商況を出現し、月平均は三割七分乃至四割五分内外の瓦落商況、従つて關

西産マタヒ、チコタヒ、レンコタヒ、エビスタヒ等各品共著しく下落した。

サバは外房産を主とし三崎、伊豆並に北陸産等も入荷し三割乃至三割四分内外の低落商況、其他ブリ、ワラサ、ピンナガ、ドビウラ、アチ、イワシ、關西産ホウボウ、ヒラメ、スマイカ、三陸産メヌキ、北海産カレヒ等各品共著しく安値商況となつた。

エビ類は上旬品薄にて意外の高値氣配なりしが中、下旬に亘りて再び朝鮮産シバエビ、大正エビ等入荷潤澤となり、廉價商況にて買人氣を唆りし爲、内地産エビ類に對する人氣遞減し、相場を牽制しつ、廣く需要者を潤ふした。

三陸産サケ、マスの新鹽物は順調な賣行を示し、竹輪は商内鈍狀、ナマリは鯉の漁況順調となると共に、製品増加し來り漸落氣配なりしも、季節物として需要多く圓滑な商内を辿つた。

六月

入梅期の六月に入り、不順な天候、氣温の上昇等に依り、鮮魚の多くは不活潑氣配の取引なりしが、入荷入場者の一日平均は共に多少増加し、中旬出廻薄なりし

時に當りて市内各所に夏期祭禮相繼ぎ、品に依つては多少賣行を促され氣味なりしが、軟弱氣配の大勢を引立つるに至らなかつた。

マグロは各地より入荷嵩み、就中各旬を通じて、富山石川、福井等の日本海沿岸に漁せられたる物最も多く其の間上、中旬は近海、紀州、土佐、下ノ關、長崎方面より、下旬は三陸沿岸のもの入荷相續き、供給豊富なりしに加へて、近海三陸産は肉質軟弱にして彈力なきもの多く、日本海産、土佐、紀州産等の遠海物は肉色褪せ、マグロ特有の色澤を失ひ、俗に脂肪焼と稱する物多く、従つて良品少く次品大部分なりし爲め、マグロの相場を著しく低廉ならしめた。メチは沼津、小田原、銚子方面の近海産及北陸方面のもの多く、メバチは三崎、房州方面より入荷し、マグロ同様安値取引であつた。

タヒ類は例年の如く上旬銚子、磐城方面より潤澤に入荷し一時は十圓堀の瓦落商況にて近年になき安値記録を作り、市民の食膳を賑はしたが、中旬に入り前記方面のもの薄漁となりし時に際し、秋田縣能代産、青森産等時折入荷を見たるも、流石に上旬の如き軟弱氣配の

取引は見られなかつた。

惣菜物中入荷多量なりしものは、房州、三崎及常磐産サバ、近海並に福井縣産アチ、トビウヲ、房州館山灣に漁せられたブリ、ワラサ、東京灣並に浦賀海峽に面する漁村に於て漁せられたイワシ、三浦半島、房州、沼津方面より入荷せるカツヲ等各品共鈍狀氣配であつた。

エビ類中、低廉なりし朝鮮産シバエビ、大正エビ等は入荷減退したが、大分、熊本方面のクマエビ、サイマキ等は幾分入荷多く下押商狀、スゞキ、フツコ、コチクヲタヒ、アワビ等の活魚介類、及び本月早々の解禁を待つて各地より出荷せられたアユ等は入荷の多少が鋭敏に市況に反映し相場の高低を見乍らも時季相應な賣行を示した。

### 七月

七月二日内閣の更迭に依り政、財界に著しき衝動を與へたるも、日用品を取扱ふ本市場には之が直接の影響とも見らる可きものは極めて輕微であつた。本月市況を市場特有の環境より窺ふに、先づ一日平均入荷數量は二割一分餘を減じ、入場者は大差なかりしも、梅雨

明け後急激なる酷暑の襲來により食欲減退の氣味にて鮮魚の需要減退し來りし上、官公、私立の諸學校中休暇に入り歸國する者等、帝都を離る、者相繼ぎ、一層需用を減じ取引一般に活氣なかりしが、相場は品薄のもの等多少高値商狀のものも見受けられた。

刺身物はマゲロを首位としてキハダ、カチキ等入荷輻輳し、廉價商狀にて遺憾なく多數市民の需用を満した即ちマゲロは各旬共敦賀、小濱等若狭方面より多量入荷相繼ぎしに加へて上、中旬は三陸沿岸に漁せられたもの、下旬は釧路、浦河等の北海道産等潤澤に入荷し剩へ著さの影響により肉質不良なる次品大部分を占め如何にも軟弱なる商狀であつた。

惣菜物中鰹は近海産漁獲漸減し幾分高値なりしが、三陸産は漁獲増加に伴ひ下押商狀となりアチは時に安値氣配の日もあつたが、近海産は比較的小堅く、關西産及常磐産は下押商狀、トビウヲは上、中旬安値商狀なりしが、下旬若狭方面よりの入荷減少し、近海産多少持直し氣味であつた。房州産ブリ、ワラサ、イナダ並に北海産サケ、マス等は入荷多く安値商狀、イカ、イサキ、タカベ等は賣行よく穩健な取引商狀であつた。

エビ類は供給薄なりしも中旬の著さと共に需用激減し急落商狀を示し、活魚介類は賣行左程引き立たざりしも季節物として高値商狀を示し、ドゼウは上旬品薄高値なりしが、中旬は入荷稍多低値し、下旬土用の入と共に好人氣を呼び三十日の丑の日迄書入時らしい活氣ある商内を維持した。

サケ、マスの鹽物は三場所、根室、エトロフ産の走り物を始め樺太産、露領産、入荷次第に増し安値氣配に轉じ、ナマリは東海道、三陸産等入荷豊富となり、安値商狀となつた。

### 八月

盛夏の八月を迎ふると共に例年の如く各種魚類の出廻薄に伴ひ消費も減少し、市況は消極的に活氣なかりしが魚價は品の多少に應じ高低區々にて一律の軟弱商狀を免れた。

マゲロは各旬とも釧路産にて潤ふされ、尙月末近く釜石物の入荷も加はり廉價商狀を反復し、月平均は九圓乃至七圓内外にて一般惣菜物以下の安値商狀であつたカチキは近海、三陸産等にて兩者共色澤、肉質大差なく相接近した取引商狀なりしも、マゲロの軟弱氣配に

押され商狀抄々しくなかつた。

カツヲ、メチは近海産薄漁、三陸、常磐産等多量なりしが、共に前月と大差なき商狀を辿り、伊豆並に三陸産イカ、擇捉島並に露領カムチャツカ産サケ、マス、常磐産ブリ、ワラサ等は何れも軟弱商狀なりしが、近海及關西産アチ、北海産カレヒ類は多少高値氣配、近海産トビウヲ、イサキ、タカベ等手堅い賣行を示した。活魚介類のクヲタヒ、スゞキ、コチ、アワビ等は賣行不振なりしも薄漁の爲高値商狀、エビ類は著さに妨げられ終始商内閑散、ドゼウは炎天打續き降雨なき爲入荷激減し、月平均は需用最盛期の七月下旬の相場を凌駕する程の高値を示し、ウナギ、アユ等は次第に賣行き澁り氣味となつた。

鹽干魚は露領産冷蔵新巻サケ、改良サケ、マス等は入荷漸次増加し來り、幾分下押商況、ナマリは、焼津、清水及三陸産等入荷多量なりしが、鮮魚と異り稍堅實な商内を示し、伊豆諸島産アラムロアチ、並にムロアチの乾物は昨年より入荷を早め、中旬以降相當纏まつた入荷を見るに至りしが、出廻り早々の事とて順調の賣行であつた。

九月

商況不振なりし八月を經過し九月に入り入場者は一日平均一割餘、入荷は同上二割餘夫々増加し、相場は稍々高値氣配にて幾分恢復的商況を示せしが、金解禁を控へた消費節約の宣傳及先月中旬以來大阪を中心として關西各地に漫延せし虎列刺は本月に入るも終熄の模様なく新患者續發の傾向を示せし等、直接間接に多少の刺戟を與へし關係か商況左程良好ではなかつた。

マグロは上、中旬に於ては釧路産を最多とし、釜石、エトロフ産之に亞ぎ、下旬に入りては釜石産多量となり、上旬は廉價商況なりしが、中旬に入り残暑緩和せられし時に際し、市内、近郊に於ける秋季祭禮相繼ぎ多少需用喚起され高値氣配となり、下旬は入荷漸減の氣味にて更に上昇した。カチキは上旬三陸産の入荷多量にて軟弱商況なりしが、中、下旬の候品稀薄となり著しく上騰した。

惣菜物中サンマの走りは本年に入り一層漁期を早め、本月九日陸中宮古より初漁物の入荷あり、爾來入荷引續き、下旬に入りては一尾平均三錢八厘乃至三錢一厘内外の安値商況にて、昨年同期の一尾平均七錢乃至五錢増加し相場は品により一律ならざりしも、概して幾分上昇氣配なりしが、金解禁準備としての、緊縮の趣旨次第に行き亘り、一般家庭に於ける消費節約漸く眞剣となり來りし爲豫期した程活氣ある取引は見られなかつた。

マグロは各旬を通じて北海道釧路産、並に三陸産等入荷し、上旬は安値人氣なりしが、中旬は高値氣配となり、下旬再び軟弱商況に傾きしが、平均相場は二割餘の高値となつた。カチキは三陸、近海産とも、上、中旬相當高値なりしが、下旬近海産の漁獲増加し、低落商況に轉せしが、平均相場はマグロ以上に三、四割内外の上騰を見た。近海産タヒ類は保合乃至稍高値商況なりしも、入荷の増減著しく日に依つて亂調子の取引を示し、關西産レソコトヒは中旬品薄高値商況なりしが、上旬、下旬の安値に平衡を保ち先月と懸隔なき取引商況であつた。サンマは鹽釜、釜石方面のものを筆頭に常磐、銚子方面よりも入荷相繼ぎ下押商況、スルメイカは近海産、三陸産、函館産等多量に入荷し、近海産は漸落商況なりしが、三陸産函館産は小形のもの減少し大形のもの

錢七厘に比し、殆ど半値近くの安値商況を示し、早くも市場人氣の中心をなした。

サケ、マスは函館並に青森經由の露領産及エトロフ島方面より入荷多く、イワシは東京灣内産、カレヒは、三陸、北海道産、アチ、サバは近海、關西産等入荷多量なりしが、概して高値氣配を辿り、カツラ、イカは近海産は上昇氣配なりしが、三陸産は入荷潤澤にて下押商況となつた。

サケの鹽物は冷蔵新巻、新巻、改良、其他根室産マス等次第に引締商況となり、ナマリは三陸、東海道筋共入荷漸減し來りしが既に氣節外れの氣味にて賣行鈍く中旬より入荷し來りしチクワは商内圓滑、伊豆諸島産アラムロアチの手鹽、並にクサヤ製、小ムロアチの手鹽製乾物等に依つてかなり多量に入荷し、鮮魚惣菜物に追従した成行商況を呈した。

十月

十月二日伊勢大神宮の第五十八回式年遷宮の御盛儀に際しては謹みて國祖の御恩澤を奉祝し市場を早仕舞といたしました。本月は各生産地共漁業順調にて、入荷潤澤、入場者も

多く、自然稍高値取引を見た。近海産サバ、イワシ、ムロアチ、三陸産スゞキ、メヌキ、北海道産サケ、カレイ、關西産フリ、アチ等品に依り高低區々なりしも比較的圓滑な賣行を示した。

エビ類中クルマエビ、サイマキ、クマエビ等は九州並に山口産を主とし、三陸産之に亞ぎ入荷増加し來りしが、需要季節に入りし事とて幾分高値商況、シバエビは近海産入荷多量なりしが、次第に成長し大型のもの出廻るに及び、可成高値商況なりしが、尙他のエビ類に比較し格安なりし爲賣行良好であつた。

北見、根室産新巻サケ、カムサツカ産冷蔵新巻サケ、改良サケ等入荷せしが、サンマ其他低廉なる鮮魚惣菜物に人氣集中されし爲か、商況抄々しくなかつたが、相場は小堅く、鹽タラは三陸、北海道産等出廻り、入荷早々の事とて健實な取引商況、伊豆、並に沼津産中乾ムロアチ、三陸、函館産チクワ、片貝産メザシ等惣菜鮮魚の市況に順應した商況であつた。

十一月

十一月に於ける市況を一瞥するに、本月二十一日を以て豫告せられたる金本位制の回復を中心として、市民



は勿論國民一般の自覺、緊張は市場取引の上にも反映し、一日平均入荷は幾分増加せし、入場者は却つて減少し、明治節、七五三、酉の市等の祝日、祭事等に際しても質素儉約を旨とせし爲、市況を引立つるに至らず、一般に不活潑商狀であつた。然しマグロの商狀は惣菜物の市況と多少趣を異にし、釧路、宮古、釜石産共、旬を追ふに従つて漁獲減少し來りし爲人氣昂進し、三陸産三割六、七分内外、釧路産一割八分内外の高値商狀、カチキは近海、三陸、長崎産等入荷し、各旬共マグロと同一氣配なりしも、月平均は却つて前月より低落した。又時折入荷した臺灣産キハタもマグロの上騰氣配に煽られて漸次高値商狀となつた。タビ類中近海産大タビ、中タビ等は幾分低落氣配なりしが、鹽焼として手頃な小タビ、ハナタビ並に關西産レンコタビ等は中旬以降人氣高商狀を呈するに至りし爲、平均相場は相當の騰貴を見た。

十二月

十二月に入り入荷、入場者とも著しく増加し、鮮魚は概して上昇氣配なりしが、鹽干魚類中には却て低落商況のものも見受けられた。之を旬別に就て考察するに入場者は上、中旬とも下旬に及ばざりしが、入荷は一頭地を抜き多量なりし爲二旬とも賣行左程引立たざりしが、下旬に入りては緊縮の内にも流石に歳末氣分加はり來り、入荷薄と關連して稍々良好な取引商勢を呈するに至つた。

マグロは入荷相續きし三陸産も本月に入り、漁獲激減し、他地方産多少姿を見せしも需用を滿たすに足らず終始強調氣配にて相場昂騰し、近海並に長崎、臺灣産カチキ、小笠原及臺灣産キハタ、三陸産ビンナガ等の入荷に依り刺身物の供給を補ひ、何れも可成の高値商狀となつた。

惣菜物中フリ、ワラサは近海及關西産等多少宛入荷し季節物として賣行よく、三陸、函館産イカ、房州、大島、朝鮮産サバは出廻り減少し人氣高商況、イワシは愛知縣方面より潤澤に入荷し近海産の品薄を調節し、近海産サンマ、キンメ三陸産メヌキ、關西産スミイカ

ソウダカツヲと共に安値商狀、スルメイカは三陸、函館産入荷多量なりしが、近海産品薄となりし爲、稍上昇氣配、スミイカは近海關西産等多く軟弱商況、ワラサは長崎、下の關並に三陸、常磐産等入荷し健實な取引狀態、北海道産カレヒ、三陸産メヌキ等は一割乃至二割内外の下落を見た。

種物中各種エビ類は小締氣配を示し、ナマコは近海産僅少なりしが、陸奥、青森方面のもの多く、カキは江戸前、松島、四國方面より入荷し相應な取引商狀、コハタは上總、房州寄りのもの並に三州、伊勢方面より入荷し幾分安値商況、赤貝は九十九里産入荷減少せしが江戸前並に三陸、長崎地方よりの入荷により品薄を緩和した。

鹽サケは新巻、改良共荷動き緩慢なりしも、年末需用期を控へたる爲相場手堅く、鹽タラ、スルメ類は普通の取引にて、小刻みの高低に止まり、房州産干サンマは伊豆並に伊豆諸島産ムロアチの乾物の漸減に代つて入荷増加し、生サンマの人氣遞下に引き替へ圓滑なる賣行商狀、チクワは三陸、函館産とも入荷輻輳し來り次第に安値商狀となつた。

北海産カレヒ類等時に氣乗薄氣配なりしも相場は幾分高値となつた。

種物類中イセエビは伊豆、鳥羽、長崎産等入荷し次第に氣配高商勢を辿り、殊に下旬は正月用飾エビとしての需用も加はり賣行良好、クルマエビ、サイマキ等は三州産の外山口、九州方面の畜養物大部分なりしが、クマエビ、スエビ類と共に出廻り減少し、一、二割内外の高値商況、シバエビは東京灣内産漁獲多く、米國産冷凍エビと共に華客の注意を牽いた。

新巻サケはカムチャツカ産夏漁物並にエトロフ、根室北見産等入荷し、例年末と異り緊縮氣分濃厚にて一般に買ひ控へ氣味に見受けられしも、相場は漸次擡頭氣配を示し、鹽タラは三陸、北海道産とも入荷増加に従ひ低落商況、數ノ子、田作等歳末需用を見越した品々は豫期に反して商談薄く、爲に各問屋筋とも賣りあせり氣味となり、本月に入り漸落商狀となつた。

冷凍魚は需用期節に入りカチキ、メカチキ等の刺身代用品、サケ、マス、アチ、サバ、サンマ、ニシン、イカ等の惣菜物並に種物の米國産エビ等賣出され、此の中冷凍サンマの人氣薄なりしと、サケ、マス等の幾分

軟弱氣配なりし外は何れも冷凍品相應な取引商状を示した。

### 二、入荷状況

當市場に集散せらる、魚介類は内地各沿岸は勿論、或は露領産、或は黄海、東海、或は北米合衆國方面より輸入せらる、等實に廣汎に亘つて居る。昭和四年中の魚荷總數量は二十二萬七千五百餘噸にして、一日最大入荷の記録は十月二十三日の市場定休日明にて千百五十六噸、同上最少入荷は九月十一日の百六十二噸にして、一ヶ年一日平均入荷數量は六百四十七噸に上り、前年に比し總量に於て四千六十餘噸、一日平均十三噸の減少に當る、而して市場開設以來逐年入荷増加の傾向を示せる魚荷が却つて幾分の減退を見たるは、大正十四年並に本年の二回にして、是は可成注目す可き點と思はる。之を月別に觀察すれば五、六、九の三ヶ月は昨年より増加せしも、殘餘の九ヶ月は夫々多少宛の減少を來し、尙之を入荷経路により、陸運、海運、生産地直送自動車、冷凍魚介別とすれば鐵道輸送量は、昭和三年に比し五千三百九十餘噸、船舶輸送量は千二百三十餘噸、共に激減し、自動車直送に依るものは二千

二百六十餘噸、冷凍魚介は二百九十餘噸、夫々増加し陸運、海運に依る減退を補填せしも、前記の通り總數量に於て、約一分八厘の減少を來した。

而して鐵道便による魚荷の減退は兩國、汐留兩驛扱の減少に基因し、隅田川驛扱のものは幾分の増加を示した。兩國驛着の減少は銚子を始め、勝浦、大原方面に於ける漁獲不振に基き、殊に兩國驛入荷の筆頭を占める銚子港の如き近年になき大不漁が主なる原因と思はる。又汐留驛着の減少は下關を始め、燒津、小田原方面よりの入荷の減退に基くもの、如し。

次に船舶による魚類の入荷減少を點檢するに、入港隻數は昭和三年に一萬三千六百餘隻のもの、昭和四年は千三百餘隻の減少を來し、一萬二千三百餘隻となつた。蓋し小舟並に發動機船の減少の結果による。發動機船による入荷は昨年の三萬五千餘噸に對し、本年は三萬六千餘噸にして、約千餘噸の増加に當り、隻數の減少に逆行せしは興味ある點にして、之が原因は近海産の漁況思はしくなかつた爲、小型發動機船の入港減少せしに反し、遠海産輸送を主とする大型發動機船の比較的多量なりしに依るもの、如し、是は商況一般の

項に既述せるマゲロの豊漁に基因し、日向、紀州、土佐並に三陸、北海道沿岸に於けるマゲロ漁昨年を凌駕せるを物語つて居る。

かく發動機船による入荷の増加も海運入荷の減退を防止するに至らざりしは東京灣汽船株式會社取扱ひに拘る三崎、房州地方の水揚減少の影響と思はる。

自動車直送に依る魚荷は千葉縣銚子、並に片貝を中心とする九十九里沿岸のものを主とし、西は静岡縣以東の魚荷にして之が利用次第に増加し、昭和三年の四百餘噸の六千餘噸に對し、今年は五千六百餘噸の八千三百餘噸に上り、利用範圍に制限ありと雖も尙幾分の増加を來すものと推察せらる。

冷凍魚介の販賣時期は鮮魚需用期節なる一月より四、五月に亘る上半期と十一、十二月の候にして、數量二千四百六十四噸に過ぎざれ共昨年より二百九十八噸の増加を示し、種類の主なるものとしては、サケ、マス、カチキ、イカ、サンマ、サバ、フリ、米國産エビ等にして總入荷に對比すれば、極めて僅少なれ共魚類供給調節上並に消費經濟上重要な一地步を占むるに至れり。

### 三、入場人員並に入車數

買出入を主とする入場人員は逐年増加し、本年は實に七百九十四萬六千餘人を算し、昭和三年の七百四十四萬餘人に對し、五十萬六千餘人を増加した。而して此の數字は消費節約の時節にして、軟弱商況に終始せし市況と對比し、一見奇なる現象と思はる、も、さにあらず寧ろ不況を裏書せる證左と認めらる。即ち從來鮮魚小賣商の手を経て購入せし、各種飲食店營業者が營業不振を打開する方法として、仕入方法の改善に氣付き、卸賣市場より直接購入する傾向を生ずるに至り、之が主なる一因と認めらる。

本年に於ける最大入場者は十二月三十一日の三萬二千五百餘人で、其の最少は八月十六日の一萬六千四百餘人である。而して一日平均入場者は二萬二千五百餘人で、之を前年に比すれば千三百餘人を増加した。更に各月に於て最も多數の入場者を見たるは、師走の七十六萬四千餘人、一日平均二萬五千四百餘人、最少は八月の六十一萬一千餘人、一日平均二萬三千二百餘人である。貨物自動車は本年三十一萬二千七百餘臺にして、前年に比し、一萬九百餘臺の減少を示し、自轉車は本年百

五十六萬八千餘臺で、前年より六千餘臺の増加を示して居る。次に手車は十六萬九千六百餘臺にして前年より約一萬三千臺の減少を示して居る。手車利用の遞減は一層顯著にして、市場附近の京橋區、日本橋區を主として、神田區芝區方面の一部の外は殆ど自動車に代りつゝあり。

#### 四、地方出荷數量

地方出荷と稱するは一度當市場に搬入せられた魚荷を取引後碎氷を加へ荷造の上、之を直接消費地に送るものと、市内各驛より近縣に積出さるゝもの、總稱である。之に従事せるものは地方出荷業者並に發送運送業者等の附屬運送業者である。

而して隅田川驛經由のものは長崎、新潟、富山、栃木宮城、秋田縣等を主とし、數量二千五百餘噸、上野驛經由のものは二千餘噸にして、上記各地方に至急を要するものを仕向け、兩國驛經由のものは千葉方面を主とし千七百餘噸、汐留驛扱ひは静岡、愛知を始め、阪神地方に迄及ぶも數量は六百餘噸にして比較的僅少である。飯田町驛經由は山梨縣、長野縣南部、岐阜縣一部等、池袋經由は東上線各驛にして一千餘噸、淺草驛

經由のものは群馬、栃木、埼玉等の諸縣にして千百餘噸、又消費地直送は埼玉縣本庄、群馬縣高崎、前橋、栃木縣宇都宮、山梨縣上野原等を主とし、遠くも六、七十哩以内の範圍に止まり其の數量二千六百餘噸に達して居る。

出荷總數量は昭和三年に於て一萬九千八百餘噸のもの本年は二割七分餘に當る五千三百餘噸の激減にて一萬四千三百餘噸となつた。

此の著しき減少は農村並に小都市等、地方消費地の不景氣の深刻化、及び漁業地より直接消費地に仕向けらるゝ、最近に於ける傾向等主なる理由と認めらる。出荷數量を入荷總數量と對照するに昨年は約八分五厘に當り、本年は六分三厘の割合を示した。

#### 五、冷蔵庫魚荷寄託狀況

當市場に入荷せる鮮魚介類の大部分は當日上場消化せられ、市設冷蔵庫に寄託するもの多くは、其の日に賣り残りたる魚荷に對し利用せらるゝものにして纏りたる魚荷を寄託し商機を待ちつゝ、出庫販賣する等の如きは殆んど稀である。従つて之が利用者の大部分は東京魚市場組合員にして、地方荷主の利用には却つて不

向である。

昭和三年中冷蔵庫寄託數量は六萬八千九十餘件の九千八十餘噸なりしが、本年は前年以上に好成績を收め、件數に於て約六分、噸數に於て約一割を増加し、七萬二千三百餘件の九千九百餘噸に上りたり。

如斯豫期以上の増加を見たるは市況の不賑、夏期に於ける酷暑の影響並に市内私設冷蔵庫に收容せられし冷凍魚介等例年以上に多量にて鮮魚類の保管に餘裕少かりし事及市場附近に於て小口の魚荷保管を目的に營業せる私設冷蔵庫が昨年七月區劃整理に依り休業せし儘今年十二月に至る迄開業の運びに至らざりし等相俟つて之が原因をなせしものと推定せらる。本年冷蔵庫の寄託魚荷を總入荷に對比すれば、昭和三年に於て約三分九厘、本年は約四分四厘に當る。本年一日平均入荷數量六百四十七噸に對し、冷蔵庫保管一日平均は二十八噸なり。



年 月 別	一ヶ月入荷数量	入 荷 目 口 平均 数量	陸		海		自動車直送		市内冷蔵庫 其他ヨリ 搬入冷凍魚
			貨車數	噸	隻數	噸	臺數	噸	
昭和十四年一月	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年二月	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年三月	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年四月	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年五月	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年六月	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年七月	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年八月	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年九月	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年十月	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年十一月	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年十二月	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年平均	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年合計	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年同月平均	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年同月合計	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年同月平均	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年同月合計	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年同月平均	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年同月合計	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八

備考 一、本市場ノ定休日ハ一月元旦及ビ毎月二十二日トス、但シ昭和二年二月七日ノ大正天皇大喪日、同三年十一月十日御即位式當日  
同十二月十三日御大禮東京市奉祝會當日ハ臨時休業セリ。

一、各平均數ハ少數點以下第一位ヲ以テ四捨五入シテ算出ス、但シ平均數ガ單ニ少數ナル時ハ計上セズ。

一、月別一日平均數ハ其月ノ開市日數ヲ以テ算出シ年別一日平均數ハ其一年ヲ通算シタル開市日數ヲ以テ算出ス、但シ大正十三年  
昭和三年ハ開年ナリ。

一、昭和二年以降ニ於テ發動機船並ニ小船數ノ激増セルハ魚荷運搬船ノ外、買出船ノ調査ヲ加算セル爲メナリ自大正十三年至同十  
五年三ヶ年ハ買出船ノ調査ヲ缺ク。

一、入荷數量六箇年比較

年 月 別	一ヶ月入荷数量	入 荷 目 口 平均 数量	陸		海		自動車直送		市内冷蔵庫 其他ヨリ 搬入冷凍魚
			貨車數	噸	隻數	噸	臺數	噸	
昭和十四年一月	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年二月	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年三月	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年四月	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年五月	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年六月	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年七月	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年八月	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年九月	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年十月	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年十一月	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年十二月	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年平均	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年合計	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年同月平均	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年同月合計	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年同月平均	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年同月合計	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年同月平均	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八
昭和十四年同月合計	一四、四三五	四九八	九八二	一〇、四九	七〇六	三、四八六	一、一八	一、一八	一、一八





Table with 2 columns: 年月別 (Year/Monthly) and 驛名 (Station Name). Rows include 青森, 鹽釜, 陸奥湊, 常磐各驛, 北陸各驛, 新潟, 函館, 北海道各驛, 其他, and 合計 (Total).

備考 一、魚價ノ積出驛名ハ本表記載ノ外ニ數多アルモ其ノ積出少量ナレバ之ヲ同方面ニ於ケル各驛欄中ニ包含セシメタリ以下同ジ。

Main data table for 隅田川驛 (Utsunomiya River Station) with columns for 平均日 (Average Daily), 平均月 (Average Monthly), 合計年 (Total Yearly), and 昭和 (Showa) years.

Large data table showing monthly and yearly averages for various years (e.g., 大正十三年, 昭和三年) across multiple months (December to July).





年 月	同昭同大					
	同和四三	同和四三	同和四三	同和四三	同和四三	同和四三
同昭同大	同昭同大	同昭同大	同昭同大	同昭同大	同昭同大	同昭同大
同和四三	同和四三	同和四三	同和四三	同和四三	同和四三	同和四三
年	年	年	年	年	年	年
同昭同大	同昭同大	同昭同大	同昭同大	同昭同大	同昭同大	同昭同大
同和四三	同和四三	同和四三	同和四三	同和四三	同和四三	同和四三
年	年	年	年	年	年	年
六月	七 二 一 三 二 三	七 五 九 六 七 一	六 八 七 二 一 三	六 七 七 二 一 三	六 八 七 二 一 三	六 八 七 二 一 三
五月	七 五 九 六 七 一	六 八 七 二 一 三	六 七 七 二 一 三	六 七 七 二 一 三	六 七 七 二 一 三	六 七 七 二 一 三
四月	六 八 七 二 一 三	六 七 七 二 一 三	六 七 七 二 一 三	六 七 七 二 一 三	六 七 七 二 一 三	六 七 七 二 一 三
三月	六 七 七 二 一 三	六 七 七 二 一 三	六 七 七 二 一 三	六 七 七 二 一 三	六 七 七 二 一 三	六 七 七 二 一 三
二月	六 八 七 二 一 三	六 七 七 二 一 三	六 七 七 二 一 三	六 七 七 二 一 三	六 七 七 二 一 三	六 七 七 二 一 三
一月	六 八 七 二 一 三	六 七 七 二 一 三	六 七 七 二 一 三	六 七 七 二 一 三	六 七 七 二 一 三	六 七 七 二 一 三
同昭同大	同昭同大	同昭同大	同昭同大	同昭同大	同昭同大	同昭同大
同和四三	同和四三	同和四三	同和四三	同和四三	同和四三	同和四三
年	年	年	年	年	年	年
同昭同大	同昭同大	同昭同大	同昭同大	同昭同大	同昭同大	同昭同大
同和四三	同和四三	同和四三	同和四三	同和四三	同和四三	同和四三
年	年	年	年	年	年	年
同昭同大	同昭同大	同昭同大	同昭同大	同昭同大	同昭同大	同昭同大
同和四三	同和四三	同和四三	同和四三	同和四三	同和四三	同和四三
年	年	年	年	年	年	年

年 月	月 別	名 稱
同昭同大	同昭同大	同昭同大
同和四三	同和四三	同和四三
年	年	年
同昭同大	同昭同大	同昭同大
同和四三	同和四三	同和四三
年	年	年
同昭同大	同昭同大	同昭同大
同和四三	同和四三	同和四三
年	年	年

(三) 沙 留 驛

平均日	平均ヶ	合年一ヶ	同昭同大
同和四三	同和四三	同和四三	同和四三
年	年	年	年
同昭同大	同昭同大	同昭同大	同昭同大
同和四三	同和四三	同和四三	同和四三
年	年	年	年
同昭同大	同昭同大	同昭同大	同昭同大
同和四三	同和四三	同和四三	同和四三
年	年	年	年
同昭同大	同昭同大	同昭同大	同昭同大
同和四三	同和四三	同和四三	同和四三
年	年	年	年

年 月 別	出 荷 地	東京		灣汽船會社		取扱		生産地ヨリ直航		其他		合 計
		伊豆地方	三崎地方	房州地方	其他	發動機船	小舟	汽船	其他			
同大正十三年		三二九	一〇三三	四三〇	七五七	七三〇	一六六	一八一	二四三	一〇三	一〇〇	三〇六
同大正十四年		三二九	一〇三三	四三〇	七五七	七三〇	一六六	一八一	二四三	一〇三	一〇〇	三〇六

(四) 海運入荷地方別六箇年比較

備考一、十三年ニアリテハ長崎下關方面ヨリ積出サレタル魚荷ヲ關西各驛欄中ニ一括計上セルモ十四年以降ハ各別ニ之ヲ計上セリ。

平均月	平均月	合計年	同昭和二年	同昭和十三年		同昭和十四年		同昭和十五年	
				同昭和十三年	同昭和十四年	同昭和十三年	同昭和十四年	同昭和十三年	同昭和十四年
三二二三四	七六四五六	一〇八六〇	一七〇七	三二二三四	三二二三四	三二二三四	三二二三四	三二二三四	三二二三四
三二二三四	七六四五六	一〇八六〇	一七〇七	三二二三四	三二二三四	三二二三四	三二二三四	三二二三四	三二二三四
三二二三四	七六四五六	一〇八六〇	一七〇七	三二二三四	三二二三四	三二二三四	三二二三四	三二二三四	三二二三四

同大正十三年	同大正十四年	同昭和十三年	同昭和十四年	同昭和十五年	同昭和十三年		同昭和十四年		同昭和十五年	
					同昭和十三年	同昭和十四年	同昭和十三年	同昭和十四年	同昭和十三年	同昭和十四年
八二一	九二二	一〇三三	一〇三三	一〇三三	一〇三三	一〇三三	一〇三三	一〇三三	一〇三三	一〇三三
八二一	九二二	一〇三三	一〇三三	一〇三三	一〇三三	一〇三三	一〇三三	一〇三三	一〇三三	一〇三三
八二一	九二二	一〇三三	一〇三三	一〇三三	一〇三三	一〇三三	一〇三三	一〇三三	一〇三三	一〇三三

同大 十三年 十二月	同大 十三年 十一月	同大 十三年 十月	同大 十三年 九月	同大 十三年 八月	同大 十三年 七月
四〇三三	三〇三三	三〇三三	三〇三三	三〇三三	三〇三三
一〇八六	一〇八六	一〇八六	一〇八六	一〇八六	一〇八六
三三三三	三三三三	三三三三	三三三三	三三三三	三三三三
九七八二	九七八二	九七八二	九七八二	九七八二	九七八二
四六七	四六七	四六七	四六七	四六七	四六七
三九六	三九六	三九六	三九六	三九六	三九六
一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一
五九八	五九八	五九八	五九八	五九八	五九八
二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇
三二七	三二七	三二七	三二七	三二七	三二七
一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七
〇二	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二
四六三	四六三	四六三	四六三	四六三	四六三
四	四	四	四	四	四
一六	一六	一六	一六	一六	一六
一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七
六三六	六三六	六三六	六三六	六三六	六三六

同大 十三年 六月	同大 十三年 五月	同大 十三年 四月	同大 十三年 三月	同大 十三年 二月	同大 十三年 一月
六六六六	六六六六	六六六六	六六六六	六六六六	六六六六
三七九	三七九	三七九	三七九	三七九	三七九
五五五	五五五	五五五	五五五	五五五	五五五
九一〇	九一〇	九一〇	九一〇	九一〇	九一〇
五九三	五九三	五九三	五九三	五九三	五九三
一八〇	一八〇	一八〇	一八〇	一八〇	一八〇
二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二
七六八	七六八	七六八	七六八	七六八	七六八
三九二	三九二	三九二	三九二	三九二	三九二
一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七
〇二	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二
四六三	四六三	四六三	四六三	四六三	四六三
四	四	四	四	四	四
一六	一六	一六	一六	一六	一六
一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七
六三六	六三六	六三六	六三六	六三六	六三六



年 月 別	種 別	入庫數量		前月ヨリノ 繰越噸數		出庫數量	
		件	噸	件	噸	件	噸
大正十四年一月	同和	1,126	1,697	1,126	1,697	1,126	1,697
大正十三年十二月	同和	1,126	1,697	1,126	1,697	1,126	1,697
大正十四年一月	同和	1,126	1,697	1,126	1,697	1,126	1,697
大正十三年十二月	同和	1,126	1,697	1,126	1,697	1,126	1,697

(六) 冷蔵庫保管數量六箇年比較

備考 一、十三年ニ地方出荷數量ノ記載ナキハ都合上調査ヲ缺キシニ依ル。  
 一、主ナル出荷先ハ長野縣、新潟縣、山梨縣、群馬縣、栃木縣、埼玉縣ニシテ千葉、神奈川諸縣之ニ次グ。  
 一、大正十四年及十五兩年消費地直送數量中ニハ池袋淺草兩驛ヨリノ出荷ヲ包含ス。

平均日	平均
同和	同和
大正十四年	大正十四年
1,126	1,126
1,697	1,697
1,126	1,126
1,697	1,697

一ヶ月	合計年	同和		同和		同和		同和		同和	
		大正十四年	大正十四年	大正十四年	大正十四年	大正十四年	大正十四年	大正十四年	大正十四年	大正十四年	大正十四年
八月	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126
九月	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126
十月	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126
十一月	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126
十二月	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126	1,126

合一ヶ計年	同同昭同同大		同同昭同同大		同同昭同同大		同同昭同同大		同同昭同同大	
	和	正	和	正	和	正	和	正	和	正
昭同大 和同正 二同十 五年五 三年三 年年年	三 二 年	十 三 年	三 二 年	十 三 年	三 二 年	十 三 年	三 二 年	十 三 年	三 二 年	十 三 年
	十二	十一	十	九						
	月	月	月	月						
二〇、六八 四、四五六 五、七〇五 六、八七八	五、九三三 四、八五五 三、九六一 二、七六四	六、八三三 五、七五五 四、六七八 三、五九〇	七、七三六 六、六五八 五、五八〇 四、四九二	八、六三六 七、五五八 六、四八〇 五、三九二	七、七三六 六、六五八 五、五八〇 四、四九二	八、六三六 七、五五八 六、四八〇 五、三九二	九、五三六 八、四五八 七、三八〇 六、二九二	一〇、四三六 九、三五八 八、二八〇 七、一九二	七、九七〇 六、八九二 五、八一四 四、七二六	七、九七〇 六、八九二 五、八一四 四、七二六
三、七五一 八、三三三 七、九〇〇	三、七五一 八、三三三 七、九〇〇	三、七五一 八、三三三 七、九〇〇	三、七五一 八、三三三 七、九〇〇	三、七五一 八、三三三 七、九〇〇	三、七五一 八、三三三 七、九〇〇	三、七五一 八、三三三 七、九〇〇	三、七五一 八、三三三 七、九〇〇	三、七五一 八、三三三 七、九〇〇	三、七五一 八、三三三 七、九〇〇	三、七五一 八、三三三 七、九〇〇
一八、四五八 四、三三七 五、三六九	二、六七五 三、四八六 四、一八七	三、三九二 四、一〇三 四、八〇四	四、〇〇九 四、七二〇 五、四二一	四、六二六 五、三三七 六、〇三八	五、二四三 五、九五四 六、六四五	五、八六〇 六、五七一 七、二七二	六、四七七 七、一八八 七、八九九	七、〇九四 七、八〇五 八、五一六	八、〇九四 八、八〇五 九、五一六	八、〇九四 八、八〇五 九、五一六
三、七二六 八、三三九 七、九〇二	三、七二六 八、三三九 七、九〇二	三、七二六 八、三三九 七、九〇二	三、七二六 八、三三九 七、九〇二	三、七二六 八、三三九 七、九〇二	三、七二六 八、三三九 七、九〇二	三、七二六 八、三三九 七、九〇二	三、七二六 八、三三九 七、九〇二	三、七二六 八、三三九 七、九〇二	三、七二六 八、三三九 七、九〇二	三、七二六 八、三三九 七、九〇二

同同大	同同昭同同大		同同昭同同大		同同昭同同大		同同昭同同大		同同昭同同大	
	和	正	和	正	和	正	和	正	和	正
昭同大 和同正 二同十 五年五 三年三 年年年	三 二 年	十 三 年	三 二 年	十 三 年	三 二 年	十 三 年	三 二 年	十 三 年	三 二 年	十 三 年
	八	七	六	五	四	三				
	月	月	月	月	月	月				
六、四九一 五、〇九七	七、六〇〇 六、三九九	八、七〇九 七、四一五	九、八一八 八、五二四	一〇、九二七 九、六三三	一二、〇三六 一〇、七四二	一三、一四五 一二、八六一	一四、二六四 一三、九七〇	一五、三七三 一四、〇七九	一六、四八二 一五、一八八	一七、五九一 一六、二九七
八、四〇〇 七、一〇六	九、五〇九 八、二一五	一〇、六一八 九、三二四	一二、七二七 一一、四三三	一三、八三六 一二、五四二	一五、九四五 一四、六四八	一七、〇六四 一五、七七〇	一八、一七三 一六、八七九	一九、二八二 一七、九八八	二〇、三九一 一九、〇九七	二一、五〇〇 二〇、二〇六
元	六	六六	六六六七	六六六六	六六六六	六六六六	六六六六	六六六六	六六六六	六六六六
五、三〇八 四、〇一四	六、四一七 五、一二三	七、五二六 六、二三二	八、六三五 七、三三九	九、七四四 八、四五〇	一〇、八五三 九、五五九	一二、〇六二 一〇、七六八	一三、一七一 一二、八七七	一四、二八〇 一三、九八六	一五、三八九 一四、〇九五	一六、五〇〇 一五、二〇六
七、九一三 六、六一九	九、〇二二 七、七二八	一〇、一三一 八、八三四	一二、二四〇 一〇、九四六	一三、三五九 一二、〇六五	一五、四八八 一四、一九四	一七、六一七 一五、三二三	一九、七九六 一七、五〇二	二一、九二五 一九、六三一	二四、〇五四 二一、七三七	二六、一七三 二三、八八五











年別	同大正十四年	同昭和三十四年	同昭和四十四年	同大正十四年	同昭和三十四年	同昭和四十四年	同大正十四年	同昭和三十四年	同昭和四十四年	同大正十四年	同昭和三十四年	同昭和四十四年
月	九	八	七	六	五	四	九	八	七	六	五	四
入	1,600	1,800										
出	1,600	1,800										
あ	1,700	1,900	1,500	1,600	1,700	1,800	1,900	2,000	2,100	2,200	2,300	2,400
ち	1,700	1,900	1,500	1,600	1,700	1,800	1,900	2,000	2,100	2,200	2,300	2,400
と												
び												
を												
い												
わ												
し												

年別	同大正十四年	同昭和三十四年	同昭和四十四年	同大正十四年	同昭和三十四年	同昭和四十四年	同大正十四年	同昭和三十四年	同昭和四十四年	同大正十四年	同昭和三十四年	同昭和四十四年
月	三	二	一	三	二	一	三	二	一	三	二	一
入	1,500	1,700										
出	1,500	1,700										
あ	1,600	1,800	1,400	1,500	1,600	1,700	1,800	1,900	2,000	2,100	2,200	2,300
ち	1,600	1,800	1,400	1,500	1,600	1,700	1,800	1,900	2,000	2,100	2,200	2,300
と												
び												
を												
い												
わ												
し												



年 月 別	種 別	同昭和 同大正 同昭和 同大正 同昭和 同大正 同昭和 同大正		同昭和 同大正 同昭和 同大正 同昭和 同大正 同昭和 同大正			
		昭和 十四 年	大正 十四 年	昭和 十四 年	大正 十四 年	昭和 十四 年	大正 十四 年
四 月	三 月	二 月	一 月	平一 均日	平一 ヶ 均月		
入庫	生	四、七五〇	四、〇〇〇	一、三三〇	一、三三〇	二、七〇〇	
出庫	生	四、七五〇	四、〇〇〇	一、三三〇	一、三三〇	二、七〇〇	
入庫	と	八二〇	八二〇	二、四三〇	二、四三〇	二、七〇〇	
出庫	と	八二〇	八二〇	二、四三〇	二、四三〇	二、七〇〇	
入庫	に						
出庫	に						
入庫	さ						
出庫	さ						
入庫	其ノ他 鮮魚	四、七五〇	四、〇〇〇	一、三三〇	一、三三〇	二、七〇〇	
出庫	其ノ他 鮮魚	四、七五〇	四、〇〇〇	一、三三〇	一、三三〇	二、七〇〇	

年 月 別	種 別	同昭和 同大正 同昭和 同大正 同昭和 同大正 同昭和 同大正		同昭和 同大正 同昭和 同大正 同昭和 同大正 同昭和 同大正			
		昭和 十四 年	大正 十四 年	昭和 十四 年	大正 十四 年	昭和 十四 年	大正 十四 年
七 月	八 月	九 月	十 月	十一 月	十二 月	合 計 年	
入庫	生	二、七〇〇	二、七〇〇	一、八二〇	一、八二〇	二、七〇〇	二、七〇〇
出庫	生	二、七〇〇	二、七〇〇	一、八二〇	一、八二〇	二、七〇〇	二、七〇〇
入庫	と	二、七〇〇	二、七〇〇	一、八二〇	一、八二〇	二、七〇〇	二、七〇〇
出庫	と	二、七〇〇	二、七〇〇	一、八二〇	一、八二〇	二、七〇〇	二、七〇〇
入庫	に						
出庫	に						
入庫	さ						
出庫	さ						
入庫	其ノ他 鮮魚	二、七〇〇	二、七〇〇	一、八二〇	一、八二〇	二、七〇〇	二、七〇〇
出庫	其ノ他 鮮魚	二、七〇〇	二、七〇〇	一、八二〇	一、八二〇	二、七〇〇	二、七〇〇









年 月 別	大正十四年				昭和十五年				昭和十六年				昭和十七年			
	一	二	三	四	一	二	三	四	一	二	三	四	一	二	三	四
まぐろ	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
きはだ	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
めぼし	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
なび	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
がん	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
め	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
ぢ	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
ぢま	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
きか	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
ぢめ	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
きか	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
さあ	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
めを	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
さほ	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
めし	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
大たひ	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
中たひ	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
小たひ	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

九、鮮魚介相場六箇年比較

(一) 近海物 (其二) (十貫建單位圓)

備考 魚名別上段ハ高値下段ハ低値トス以下皆同シ、別平均魚價ハ便宜上各月ニ於ケル高値、低値ヲ各、別ニ合計シ其ノ月日ニテ除シ四捨五入セリ、

大正十四年	昭和十五年	昭和十六年	昭和十七年
...	...	...	...
...	...	...	...
...	...	...	...
...	...	...	...

大正十四年	昭和十五年	昭和十六年	昭和十七年	昭和十八年	昭和十九年
...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...















同 四三 年	同 和 年	同 昭 年	同 正 年	同 昭 年	同 正 年	同 昭 年	同 正 年	同 昭 年	同 正 年	同 昭 年	同 正 年	同 昭 年	同 正 年	同 昭 年	同 正 年	同 昭 年	同 正 年
十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	十	九	八	七	六	五	四	三
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
三〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
七四	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
八三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三六	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

同 和 年	同 昭 年	同 正 年	同 昭 年	同 正 年	同 昭 年	同 正 年	同 昭 年	同 正 年	同 昭 年	同 正 年	同 昭 年	同 正 年	同 昭 年	同 正 年	同 昭 年	同 正 年	同 昭 年	同 正 年
五	四	三	二	一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	十	九	八	
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	
二四	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
一五	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
三三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
八九	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
三三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
九〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
三四	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
二〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
八二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
五五	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	

近海物 (其六) (二尾建單位錢)

年 月 別  
なまこ  
かに  
名











昭和 和 十 五 三 年	同 大 正 十 三 年	同 昭 和 十 三 年	同 大 正 十 三 年	同 昭 和 十 三 年	同 大 正 十 三 年	同 昭 和 十 三 年	同 大 正 十 三 年	同 昭 和 十 三 年	同 大 正 十 三 年	年 月 別
五	四	三	二	一						年
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
										別
										ちま
										きか
										ちめ
										きか
										まぐろ
										めばち
										めち
										さねずめ
										大たひ
										ぬばら
										きめ
										めぬき
										ぶり
										り
										わらき
										いなだ
										名

(四) 三 陸 物 (其二) (十貫建單位圓)

平均 魚 價	同 昭 和 十 三 年	同 大 正 十 三 年	同 昭 和 十 三 年	同 大 正 十 三 年	同 昭 和 十 三 年	同 大 正 十 三 年	同 昭 和 十 三 年	同 大 正 十 三 年	同 昭 和 十 三 年	同 大 正 十 三 年	年 月 別
同 昭 和 十 三 年	同 大 正 十 三 年	同 昭 和 十 三 年	同 大 正 十 三 年	同 昭 和 十 三 年	同 大 正 十 三 年	同 昭 和 十 三 年	同 大 正 十 三 年	同 昭 和 十 三 年	同 大 正 十 三 年	同 昭 和 十 三 年	年
四 三 一 五 三 年	十 三 年	十 三 年	十 三 年	十 三 年	十 三 年	十 三 年	十 三 年	十 三 年	十 三 年	十 三 年	月
五	四	三	二	一							月
											別
											ちま
											きか
											ちめ
											きか
											まぐろ
											めばち
											めち
											さねずめ
											大たひ
											ぬばら
											きめ
											めぬき
											ぶり
											り
											わらき
											いなだ
											名







昭和四十四年	昭和四十四年	昭和四十四年	昭和四十四年	昭和四十四年	昭和四十四年
九月	八月	七月	六月	五月	四月
三三三五六 五五五〇八	三二二三九 九三〇六〇	二二二三三 八七七七九	六〇		
二三四二四 四〇五二八	三二二三三 〇〇五〇〇	二二二三三 四〇九七	五〇		
七七七 一〇五					
五五六 八七〇					
		七	三七	三五	
		六	九六	〇三	
七八〇	〇九九	六五七	五六六九	七	
六七七	九六六	五四六	四四五七	五	

昭和四十四年	昭和四十四年	昭和四十四年	昭和四十四年	昭和四十四年	昭和四十四年
四月	三月	二月	一月	平均魚價	昭和四十四年
				同同同同同 四三二四三 年年年年年	同同同同同 四三二四三 年年年年年
				小 一尾 の 付	二 五 一 二
				同 上	二 一 一 二
				魚	二 一 一 二
				陸	七 〇 一 六 三 一
				物	六 八 一 六 三 一
				(其三)	三 七 五 七 七
				(十貫建單位圓)	三 三 三 三 三
				名	三 三 三 三 三
					二 〇 一 二 二
					二 〇 一 二 二
					八 〇 三 八 九 八
					六 六 七 七 八
					五 五 六 六 七
					三 三 三 三 三
					〇 九 二 八 三 三

















附錄

汚物搬出數量五箇年比較

年 月 別	種 別		一ヶ月合計	一日平均	一ヶ月合計	一日平均	一ヶ月合計	一日平均	一ヶ月合計	一日平均
	座	芥								
昭和十五年一月	二,一〇〇	一,一〇〇	三,二〇〇	一〇六	一,一〇〇	三六	一,一〇〇	三六	一,一〇〇	三六
昭和十五年二月	二,一〇〇	一,一〇〇	三,二〇〇	一〇六	一,一〇〇	三六	一,一〇〇	三六	一,一〇〇	三六
昭和十五年三月	二,一〇〇	一,一〇〇	三,二〇〇	一〇六	一,一〇〇	三六	一,一〇〇	三六	一,一〇〇	三六
昭和十五年四月	二,一〇〇	一,一〇〇	三,二〇〇	一〇六	一,一〇〇	三六	一,一〇〇	三六	一,一〇〇	三六
昭和十五年五月	二,一〇〇	一,一〇〇	三,二〇〇	一〇六	一,一〇〇	三六	一,一〇〇	三六	一,一〇〇	三六

年 月 別	種 別		一ヶ月合計	一日平均	一ヶ月合計	一日平均	一ヶ月合計	一日平均	一ヶ月合計	一日平均
	座	芥								
昭和十四年十一月	二,一〇〇	一,一〇〇	三,二〇〇	一〇六	一,一〇〇	三六	一,一〇〇	三六	一,一〇〇	三六
昭和十四年十二月	二,一〇〇	一,一〇〇	三,二〇〇	一〇六	一,一〇〇	三六	一,一〇〇	三六	一,一〇〇	三六
昭和十四年一月	二,一〇〇	一,一〇〇	三,二〇〇	一〇六	一,一〇〇	三六	一,一〇〇	三六	一,一〇〇	三六
昭和十四年二月	二,一〇〇	一,一〇〇	三,二〇〇	一〇六	一,一〇〇	三六	一,一〇〇	三六	一,一〇〇	三六
昭和十四年三月	二,一〇〇	一,一〇〇	三,二〇〇	一〇六	一,一〇〇	三六	一,一〇〇	三六	一,一〇〇	三六

14,4  
691

備考	一日平均	平均月	合計年	同昭和同大
	同昭和同大 四三二五 年年年年	同昭和同大 四三二五 年年年年	同昭和同大 四三二五 年年年年	同昭和同大 四三二五 年年年年
一、大正十三年ハ各欄同十四年ハ游泥調査ヲ缺ク。		一五、五〇〇 一六、〇〇〇 一八、九〇二 二一、三、五七六 二七、五七五	二、七〇〇 二、五〇〇 二、二〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇	一五、八〇〇 一六、五〇〇 一八、九七〇 二〇、九二〇 二五、五〇〇
	七、七三〇 七、三〇八			一〇、六六五 九、八五一
		六、七四八 五、三二二 四、八二七	一〇、八七三 一〇、六八〇 一〇、五八〇	四、七三〇 四、七三〇 四、七三〇
	二、九五一 二、三〇〇			一、四九一 一、四七四 一、〇四三 一、六五八
		一、七七一 一、五三七 一、三六七	二、三九七 二、二七九 二、一七六	一、四九六 一、六八八 二、一三六
	六、六五五 六、五五五			七、七五五 七、五五五
		八、八七〇 八、九七〇 七、七五〇	一〇、八八〇 一〇、七五〇 一〇、七五〇	七、八七一 七、八六一 七、九六一
	三、三三四			三、三三四

終

